

いん ぶん
としかお
因田 義男



名古屋学院大学理事長

末安堅二前理事長の任期満了に伴い、8月3日付で因田義男理事長が理事長に就任した。任期は2021年8月2日までの3年間。

因田義男理事長は1944年三重県生まれ。1968年法政大学法学部卒業。同年名古屋市役所に入庁し、市長室長、総務局長などを経て、2002年に助役・副市長に就任。名古屋市の公立大学統廃合や名古屋私立大学の独立行政法人化に尽力した。2012年から本法人監事を務める。

新理事長は就任に当たり、人間力「社会を生き抜く力、思考力・判断力、表現力といった力を高められるよりよい教育環境や、多様な価値観を包容する力を養う環境の整備をさらに進め、「中長期計画2014―2023」の実績を踏まえて策定された「中期アクションプラン2018―2020」の深化と具現化に向けてスピード感をもって取り組むと述べた。

名古屋学院大学は、2019年に大学創立55周年を迎える。キリスト教主義大学として、建学の精神「敬神愛人」に基づいた人間性と国際性を柱とする教育を一貫して進めており、2018年9月には国際人材教育拠点「GLOBAL LINKS」を開設するなど、着実に教育環境を整えている。大学を取り巻く社会情勢は変化が激しく、課題は山積しているものの、温厚でありながらエネルギーに満ちあふれた新理事長の果敢な挑戦が期待される。

UNIVERSITY CURRENT REVIEW



奇数月20日（年6回）刊行

●WEBサイトにて、全文無料公開中

※第324号（2009年1月発行）から
詳細は
<http://daigakujihou.shidaiaren.or.jp/>



第381号（2018年7月発行）

【特集】

留学（海外送り出し）に伴う問題への取り組み



【座談会】
未来を先導する私立大学の将来像

【インタビュー】
富田 洋之氏（順天堂大学スポーツ健康科学部准教授、体操競技部コーチ）

第382号（2018年9月発行）

【特集】

自校史と大学博物館



【座談会】
IRの実践の現状

【インタビュー】
善竹富太郎氏（大蔵流狂言師）

木越 康 大谷大学学長。'90大谷大学大学院文学研究科真宗学専攻博士後期課程満期退学。修士（文学）。'16から現職。著書『ポランティアは親鸞の教えに反するののか』など。

Oussouby SACKO 京都精華大学学長。マリ共和国で生まれ、中国・北京語言大学、南京東南大学を経て来日。'01から京都精華大学教員、'18から現職。専門は空聞人類学。

佐々木宏 立教大学経営学部教授／キャリアセンター部長。大阪大学大学院経済学研究科、博士（経済学）。専門は経営学。'03社会学部教授を経て、'06から現職。

水島久光 東海大学キャリア就職センター所長、文化社会学部教授。'03東京大学大学院学際情報学府修士課程修了。修士（学際情報学）。広告会社、インターネット企業勤務を経て現職。

清水克弥 石川県参事（いしかわ就職・定住総合サポートセンター長）。関西大学法学部法律学科卒。総務部人事課長、商工労働部次長などを経て、'17から現職。

青木 隆 長野県産業労働部労働雇用課長。'85慶應義塾大学商学部卒。修士（学術）。'85長野県職員、'14県民文化部次世代サポート課長を経て、'17から現職。

音 好宏 上智大学文学部教授。'90上智大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。専門はメディア論。主著『放送メディアの現代的展開』ほか。

安部誠治 関西大学社会安全学部教授。大阪市立大学助教授などを経て、'94から関西大学商学部教授。副学長、社会安全学部長などを歴任し、'18から現職。

本廣賢吾 学校法人広島女学院法人・大学事務局長。広島大学経済学部卒。

井上博司 熊本学園大学総務部次長。熊本商科大学（現・熊本学園大学）経済学部卒。'91熊本商科大学入職、'17から現職。

白幡 晶 城西大学学長、薬学部教授。'81東京大学大学院薬学系研究科博士後期課程修了。薬学博士。米国ベンシルバニア州立大学医学部研究員を経て、'85城西大学入職、'16に学長就任。

菊地光男 福岡大学総務部長。'83福岡大学商学部卒。同年福岡大学職員、その後、福岡大学病院事務長を経て、'17から現職。

八田浩康 亜細亜大学総合企画部地域交流課長。'85亜細亜大学経済学部卒。地域産学連携推進室課長、入試課長、大学院事務課長、秘書課長を経て、'17から現職。

貫 正義 学校法人福岡大学理事長、九州電力（株）相談役。'68九州大学経済学部卒、同年九州電力入社。副社長、会長を経て、'18から相談役。'17福岡大学理事、同年12月から理事長。

JAMES FARRER 上智大学国際教養学部教授、グローバル・スタディーズ研究科グローバル社会専攻主任。シカゴ大学社会学研究科博士後期課程修了。専門は都市社会学。

児玉耕太 立命館大学テクノロジー・マネジ
メント研究科准教授。'04九州大学薬学府博士
後期課程修了、博士（薬学）。理化学研究所、
北海道大学などを経て、'16から現職。

濱田勝宏 文化ファッション大学院大学学
長。'70早稲田大学院政治学研究科修士課
程修了。'70入職、以来同学園に勤務。'18から
現職。主著『現代社会学への招待』など。

長澤忠徳 武蔵野美術大学学長、教授。武蔵
野美術大学造形学部卒。'81英国ロイヤルカレッ
ジオブアート修士課程修了。主著『インタン
ジブル・イラ』ほか。

岡原宏一 税理士、公認会計士。日本私立大
学連盟顧問税理士。

北條英勝 武蔵野大学教務部長、人間科学部
教授。東洋大学大学院社会学研究科社会学専
攻博士課程単位取得後退学。修士（社会学）。

南部紘一郎 豊田工業大学工学部助教。'11名
城大学理工学部博士後期課程卒。博士（工
学）。鈴鹿工業高等専門学校機械工学科助教を
経て、'17から現職。

野島一彦 跡見学園女子大学心理学部長。'75
九州大学大学院教育学研究科博士課程単位取
得退学。博士。九州大学を経て'12から現職。
主著『臨床心理学概論』など。

早乙女徹 学校法人芝浦工業大学常務理事。'79
法政大学経済学部卒。同年に学校法人芝浦工
業大学入職、財務部長、事務局長・理事など
を経て、'18から現職。

土持和久 上智学院人事局人事サービスグ
ループ長。

川久保清 共立女子大学、共立女子短期大学
学長。東京大学医学部卒。東京大学医学部助
教授を経て、'03共立女子大学家政学部教授。'18
4月学長に就任。

島田勉 学校法人創価大学評議員、本部署
局長。創価大学大学院法学研究科修士課
程修了。人事課長、財務部副部長、企画室部
長を経て、本部署局長。'186月から現職。

石村一枝 福岡市出身、福岡女学院大学卒。
バレンタインデーのお返しをする日として日
本で定着している「ホワイトデー」を考案し
た、博多を代表する菓子店「石村萬盛堂」の
3代目社長・石村善悟さんの妻。プロボーズ
の言葉は「社会と接点を持つことによって、
人は成長する。だから、君も一緒に働いても
らいたい」。女性は家庭に入るのが当たり前の
時代に、夫婦で経営を行ってきた。

脇浜紀子 京都産業大学現代社会学部教授。
神戸大学法学部卒。'90読売テレビ入社。'10大
阪大学大学院国際公共政策博士号取得。研究
分野は地域メディアと地域情報。

〈お断り〉本稿は、お書きいただいた資料から、できる限り統一して掲載いたしました。

- 9月11日(火) 第4回常務理事会・第6回理事会に出席。
- 9月13日(木) 記者会見に出席。昨今の高等教育政策に関する齟齬や危機意識、新たな案を提示した「高等教育政策に関する私大連の見解」を公表。
- 10月2日(火) 第5回常務理事会に出席。
- 10月5日(金) 自由民主党耐震議連総会に出席。私立大学の耐震化の遅れと支援について説明・要望。
- 10月9日(火) 麻生太郎財務大臣に自民党耐震議連と共に私立大学の耐震化支援を要望。
- 10月10日(水) 柴山昌彦文部科学大臣に自民党耐震議連と共に私立大学の耐震化支援を要望。菅義偉官房長官に自民党耐震議連と共に私立大学の耐震化支援を要望。
- 10月16日(火) 第6回常務理事会・第7回理事会に出席。
- 10月17日(水)

「私大連フォーラム2018」にパネリストとして出席。産業界などのトップリーダーと交え、2040年を見据えた私立大学の大学改革と人材育成について議論。

● 10月18日(木) 全私学連合代表として柴山昌彦文部科学大臣を表敬訪問。



私大連フォーラム2018を開催

平成30年秋の叙勲・褒章

(連盟事業関係者)

〈叙勲〉

旭日重光章

長田 豊臣 (立命館元理事長)

瑞宝中綬章

安蘇谷正彦 (國學院名誉教授、元大学長)

大橋ゆかこ (文教大学元大学長)

佐藤 英善 (早稲田大学名誉教授、元常任理事、元法学部長)

佐藤 義彦 (同志社大学名誉教授、元法学部長)

武藤 元昭 (青山学院大学名誉教授、元学長、元静岡英和学院大学学長)

開催報告

● 9月3日(月) 「理事長会議」開催

「私立大学法人におけるガバナンス・マネジメント体制の要諦『なぜ?』を明確にし、『何を?』を考える」をテーマに、品川プリンスホテル(東京都港区)にて開催。59法人72名の参加があった。

● 9月28日(金) 「国の補助金等に関する説明会(第1回)」開催

「平成31年度私立大学等経常費補助に関する概算要求」、「国公私立大学を通じた大学教育再生の戦略的推進等に関する概算要求」ならびに「大学等の留学生交流の充実にかかる事業等」について、文部科学省担当者から報告・説明があった。また、内閣官房担当者から地方創生に関わる国の制度・予算の動向について説明があり、98大学、374名の参加があった。

座談会 「教職協働の現状と課題」

特集 「入学前教育の現状と課題」

小特集 「大学Webサイトリニューアルの取り組み」

表紙・大学点描 聖路加国際大学 だいがくのたから 流通経済大学

クロースアップ・インタビュー：

「新田 晃千さん（池袋市民法律事務所、カバディ選手）」

編集後記

◆「人間50年」といった時代から幾多の年月が過ぎ、平均寿命は飛躍的に延びた。それでも「自然」の時間と比べれば、人の一生はほんの一瞬に過ぎない。そんな短い時間だが、誰もが教訓とすべき諺や戒めとすべき出来事は数多くある。子孫に伝承し対処する術も、今も昔もそんなに変わらない。皆で連携し、常に意識し、備えるということだ。

◆今後、AIがどこまで入ってくるか予想もできない。もしかすれば大きく助けてくれるかもしれない。しかし、大学が人間の集合体である限り、災害の被害をしっかりと記録し、同じことを繰り返さないための取り組みを継続的に行わなければならないだろう。永続的に存在し続ける大学ならばなおのことである。

◆今回、「寄稿いただいた原稿を拝読し、大学の守備範囲はとてつもなく広いと再認識した。そして、守備範囲が広ければ広いほど、基礎的な訓練や日頃の備えが大切であると感じた。「人生100年時代」の備えとともに、大学として、しっかりと体制と意

識づくりをしていきたい。(広報・情報部門会議(大学時報)委員・関西大学総合企画室広報課長 依藤 康正)

◆今回の小特集で大学院をとりあげることとなり、各大学院に情報提供をお願いしたところ、多くの大学から、まさにため息交じりに、長く課題となっていて答えが見えないとの声が多く寄せられた。それを裏付けるように、定員充足率も倍率も、臨床心理系や工学系、そしてMBAを除けばいずれも厳しい数字であるところが多い。

◆原稿依頼の声をおかけしながらも、小特集のテーマに合うような活力ある大学院、研究科が、果たしてあるのだろうか、やや不安にもなった。しかし、お読みいただいたわかるように、活力ある大学院は、教育・研究に強力、かつ体系的な軸を与えることができ、また社会に高等教育機関としての大きなプレゼンスを示すプラットフォームになり得ることが分かる。

◆大学院問題の背景には各校ともに、さまざまな構造的問題はあると思われ、大学院を組織の中でどのように位置付けるかという視点の問題がその解決の糸口ではないか

と、編集して感じてきた次第である。お役に立てれば何よりである。(広報・情報部門会議(大学時報)委員・日本大学芸術学部教授 兼高 聖雄)

◆人生100年時代、一億総活躍社会の実現、定年を70歳に引き上げる方針が発表される中で、現代を生きる国民の人生設計のあり方も大きく変わろうとしている。

◆今号のクロースアップ・インタビューでは、株式会社石村萬盛堂専務の石村一枝さんにお話をうかがった。

◆石村さんは、博多を代表する菓子店「石村萬盛堂」の3代目社長の石村善悟さんの妻として、お店の経営にも積極的に携われ、その過程で、50歳を過ぎてから大学に入り直し、マーケティングを学ばれた。そこで、幅広い意見やものの見方に触れ、理論と実践の違いなど多くのものを学び、その後の人生における新たな課題が見つかり、これからもやりたいことがたくさんあるとおっしゃっている。

◆50歳を過ぎてから人生の再設計が可能な時代の到来。担う役割への期待も大きい。(日本私立大学連盟事務局 佐藤 義文)

